

聖母マリアの被昇天

第一朗読 黙示録 11・19a、12・1-6、10ab

第二朗読 一コリント 15・20-27a

福音朗読 ルカ 1・39-56

2025.8.15 19:00 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

ある若者が、実家に帰ったときに自分のお姉さんのお子さんの面倒を見るのを手伝う。で、3歳というと、「なんで？」とかいろいろ聞いて来る、そういう時期だそうなんですけども、「なんで？」「なんで？」といろいろ聞いてくるから面倒くさくなって考え出したのが、「なんでだと思う？」って相手に投げかけちゃうっていう、そういうことらしいんですけど、幼稚園にお迎えに行ったときに、カラスが木に止まっていて、「なんで木に止まっているの？」って聞いてきたから、「なんでだと思う？」と聞いたら、「大好きだから」って答えてきた。何が大好きかという、「ぼくのが」っていうことのようなんです。そして、そのカラスが今度は地上に降りてきたら、「なんで降りて来たの？」っていうから「なんでだと思う？」って。「大好きだから」ってまた答えるんだそうです。

「全然関係ないじゃん」ってその叔父さん——その若者——は言うんだけど、でもすごいですよね。「大好きだから」しか言葉を知らないのかもしれないんですけど、でもそういうことってとっても大事だなんて感心したんです。全ての出来事が「自分のことが大好きだから起っているんだ」っていうふうに説明できる、その感性。カラスが木に止まっているのも大好きだから、降りてくるのも大好きだから、飛んでいくのも大好きだからってね。

でも、やがて大人になっていくにつれて、世の中の出来事というのは自分とは無関係に起っているのだということを痛感させられて、それを受け入れていかなければならなくなっていくっていうのも、ある意味では成長ということになるわけですけど、それだけではなくて、本当は、信仰の目で見るとすれば、そういうことは全部分かったうえで、もう一回全ての出来事が「自分のことが大好きだから」って言えるような、信仰に導かれてそういうものの見方をもう一度獲得していく。それを「セカンド・ナ

ティヴィティー」(「ナティヴィティーnativity」っていうのは「生まれる」っていう意味です)、もう一度生まれる——イエス様も「新たに生まれなければ、あなたがたのうちに命がない」とおっしゃいます。洗礼を通してもう一度生まれるという言い方をしますけども(ヨハネ 3・3、3・5 参照)——、それは、世の中の出来事がある意味では自分とは無関係に起っているっていうことを受け入れながらも、しかしもう一度、信仰の目で、それはその背後にいらっしゃる神様が自分のことが大好きだから全てのことが起こるんだというふうに、もう一回、子どものような目で出来事を受け取る、そのことがとっても大切なんだ。それこそが信仰の考え方。

ずっと子どものまんまじゃ不味いかもしれませんが、最初、子どもの頃、全てが自分が大好きだから起っている。でもそうじゃないことを受け入れる。でも再び信仰に支えられて、そのものの見方をもう一度——敢えてって言うか——見ていくっていう、その流れです。

今日、わたしたちが、マリア様がこの地上の生涯を終えられたあとに直通で天に迎え入れられたということを記念するミサをお捧げしていますけども、そのことも、「マリア様がどうしてすぐに天の国に迎え入れられたんですか？」という質問に、「神様がわたしのことを大好きだから」というふうに答える——自分と関連付けて受け取るということが大事だと思います。マリア様の生涯が、マリア様が自分とは関係ない方の生涯として「こういうふうに歩まれたので」っていうような説明じゃなくて、「神様がわたしのことを——一人ひとりのことを——大好きなので、マリア様を天国に挙げられました」という説明——一見関係ないように思われます。「なぜか？」。

「なぜならば、神様が大好きな一人ひとりを、一番ご自分の近い所で、その一人ひとりのために——わたしのために——お祈りする、そういう助け手を一刻も早く与えたかったから」という、そこまでの説明をするとちょっと理屈っぽいというか、大人の世界になってしまいますけども。でも、全ての恵みの出来事が——でも実は、更には困難さえも——神様がわたしたちのことを大好きだからそれが起こっているっていう信頼のうちに生きていくことができるならば、まさにそこに希望があると言っていいんじゃないかと思います。

今日、聖母被昇天は、天国の神様の一番近い所で一人ひとりのために祈ってくださる、そういう助け手を神様が与えてくださったっていうことを感謝する日でもあるわ

けです。そういう意味では、誰一人、「自分のために祈ってくれている人がいない」って言うことはできないわけです。もちろん信者の友だちや家族がいる人はお互い同士祈り合うけれども、全ての人から嫌われて、全ての人から見捨てられているような人でも、でも一番強力なマリア様がいらっしゃる——マリア様には誰も勝てないでしょう、ということになるわけです——ということで、誰一人、祈られていない人はいないのだという、その現実を、今日、聖母被昇天の恵みの中に見出すということが大切なのではないかなと思います。

そして、マリア様と同じ心でわたしたちも互いに祈り合うことを通して、少しずつでも、今日——平和旬間の最後の日になりますけれども——平和を求め、また平和の種となっていくことができますように、マリア様の取り次ぎのうちに、また一人ひとりの祈りをマリア様の祈りに合わせ、そしてイエス様の恵みに信頼して、このごミサを共にお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>